

スウェーデン，上部カンブリア系“オルステン”から産出する甲殻類 *Falites angustiduplicata* Müller, 1964

田中源吾*・鈴木雄太郎**

*金沢大学????・**静岡大学理学部地球科学教室

A Crustacea *Falites angustiduplicata* Müller, 1964 from Upper Cambrian 'Orsten' of Sweden

Gengo TANAKA* and Yutaro SUZUKI**

*Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University, Ishikawa 920-1192, Japan(tgengo@ge.kanazawa-u.ac.jp); **Institute of Geosciences, Shizuoka University, Shizuoka 422-8529, Japan(sysuzuki@ipc.shizuoka.ac.jp).

Key words: Crustacea, *Falites angustiduplicata*, Orsten, limestone nodule, Upper Cambrian, Sweden

スウェーデン，上部カンブリア系（図1）の Alum 頁岩中にはしばしば大小様々な“Orsten”ノジュールが発達し（図2），そのノジュール中からは，軟体部までも3次元的に保存された節足動物をはじめとした多種多様な化石が産出することが知られている。*Falites angustiduplicata*（図3）が属する Phosphatocopina は，長い間，介形虫類の1分類群として分類されてきたが，その後の標本の蓄積および軟体部の詳細な比較解剖学的検討により，現在では Eucrustacea（エビ・カニに代表される軟甲類と介形虫・フジツボに代表されるエントモストラカから構成される）と姉妹群を構成する甲殻類の1分類群と考えられている（Maas *et al.*, 2003）。

文献

Maas, A., Waloszek, D., and Müller, K.J., 2003, Morphology, ontogeny and phylogeny of the Phosphatocopina (Crustacea) from the Upper Cambrian “Orsten” of Sweden. *Fossils and Strata*, 49, 1-238.

Müller, K.J., 1964, Ostracoda (Bradiorina) mit phosphatischen Gehäusen aus dem Oberkambrium von Schweden. *Neues Jahrbuch für Geologie und Paläontologie, Abhandlungen*, 121, 1-46.

(2004年8月12日受付，2004年11月9日受理)

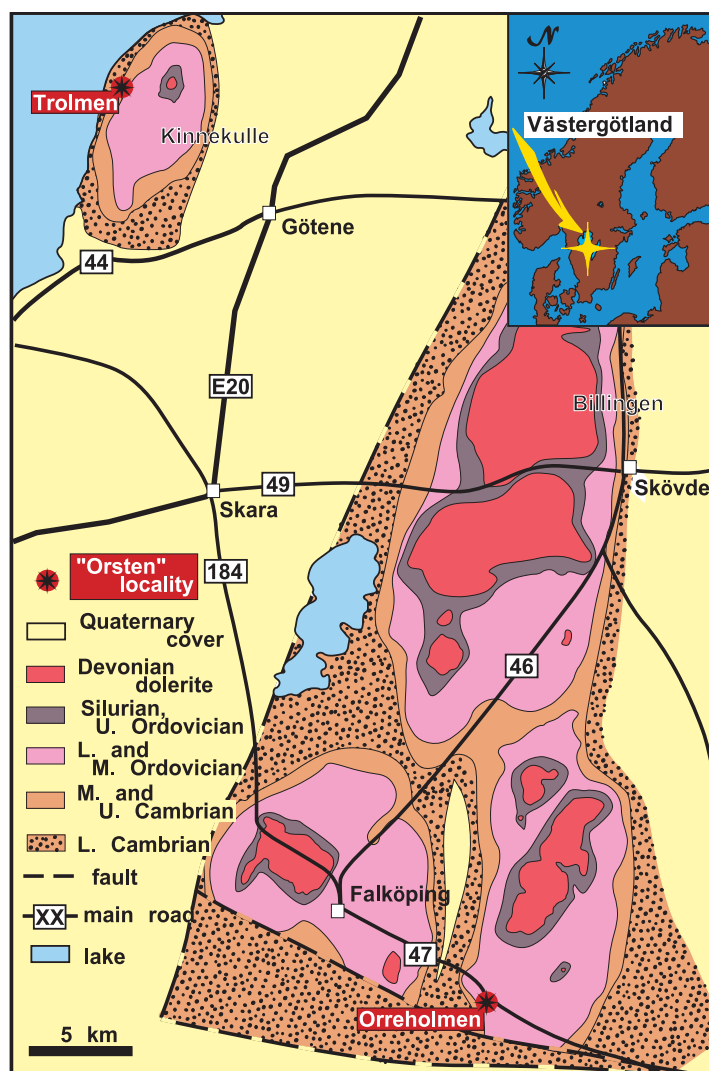


図1. 調査位置図.

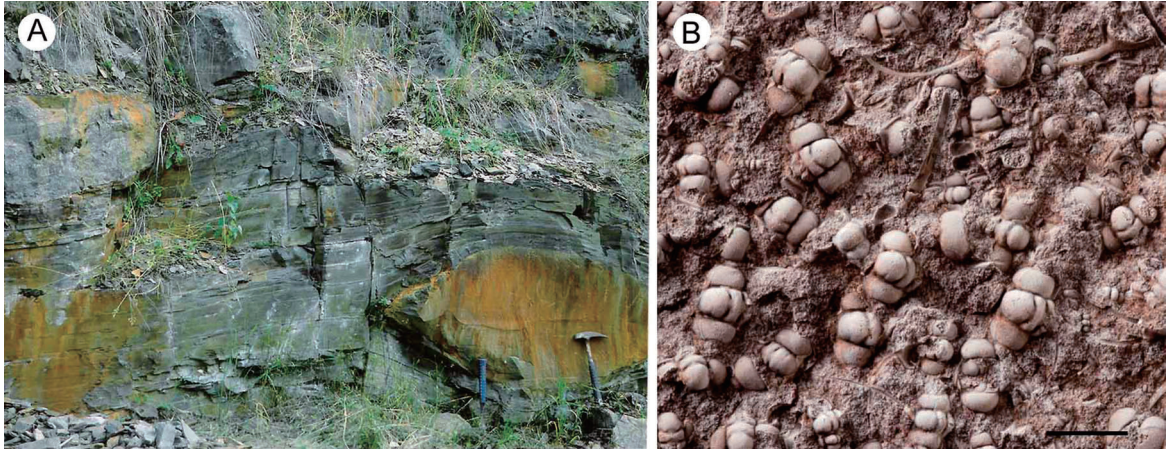


図2. A, スウェーデン, Vaster gotland, Kinnekulleに露出する“Orsten”ノジュール(長軸の長さは約80 cm)を伴う Alum 頁岩の露頭写真. “Orsten”はスウェーデン語の“ome sten=pig stone”に由来し, その名が示すように腐卵臭を伴う石灰質ノジュールである. B, ノジュールの表面拡大写真, 三葉虫 *Ctenopyge* sp. の離散外骨格が一面に観察される. スケールバーは 5 mm.

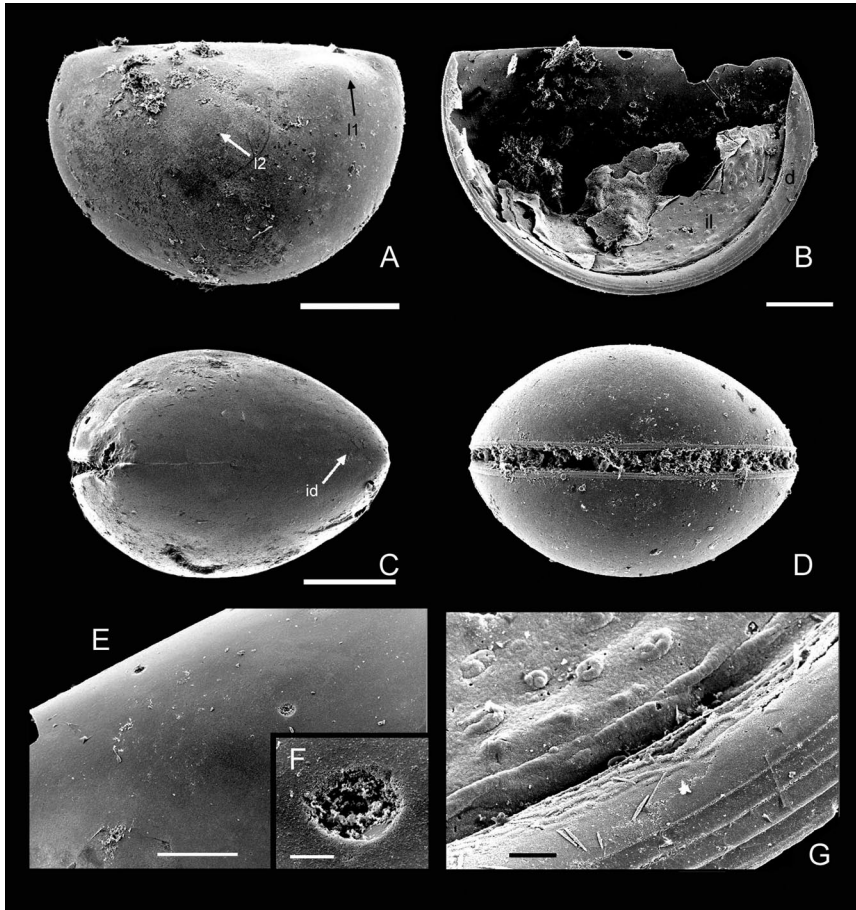


図3. *Falites angustiduplicata* の電子顕微鏡写真. ノジュールを10%酢酸で脱灰した残さから抽出した. 殻は光学顕微鏡下で半透明の琥珀色を呈し, 薄く壊れやすい. A, 右殻の外側面観. 本種の表徴であるドーム状に膨らんだ殻, 背縁中央部で最大殻高をなすアウトライン. 2つの膨らみ (lobe: I1, I2) が観察できる. このうちI1はMüller (1964) によって eye spot とされている. B, 左殻の内側面観. 狭く均一な幅を持った doublure (d: 介形虫類では duplicature と呼ばれる) が特徴的で, Müller (1964) はこの特徴をもとに本種を命名した. 写真の標本では doublure に inner lamella (il) が付着している. C, 両殻のそろった殻 (shield) を背側から観察したもの. 左側が前方. 蝶番構造は観察されず, 両殻が interdorsum (id) で連結している. D, C の標本を腹側から観察したもの. E, 殻の外表面には幾つかの pore が発達する. 介形虫類の感覚孔 (pore canal) を髣髴とさせる. F, pore の拡大写真. G, B の doublure の一部を拡大したもの. 介形虫類の duplicature に発達する selvage や list を思わせる平行な幾つかのストライプが観察できる. また, inner lamella には円形に膨らんだ幾つかの構造物が見られる. スケールバー: A, B=100 μ m; C-E=50 μ m; F=5 μ m; G=10 μ m.